

平成 17 年 4 月 1 日



リンゴを食べると口の中がかゆくなったり腫れたりする患者さんがいます。口腔アレルギー症候群（Oral Allergy Syndrome : OAS）と専門的には呼ばれていますが、一般には果物アレルギーと呼びます。実際は果物だけではなく野菜も含まれています。特に花粉症との関係が指摘されていましたが、あまり注目されず、欧米を中心に本格的な研究、およびその報告が多く見られるようになったのは最近のことです。そこで今回は、「果物アレルギー（口腔アレルギー症候群）」についてお話ししたいと思います。

●定義

ヨーロッパでは、シラカンバ花粉症に新鮮なリンゴ、モモ、イチゴなどの果物あるいは種実や野菜を食べると口腔咽喉頭にかゆみや腫脹を訴える患者が多いことから、**OAS は花粉症との合併で注目を集めるようになりました。**

日本では北海道のシラカンバ花粉症や神戸六甲地方のオオバヤシャブシ花粉症患者がリンゴやモモなどのバラ科の果物を食べると、OAS を合併していることが問題となってきています。

OAS とは、シラカンバを中心とした花粉症患者に、摂取食物が抗原となる IgE を介した I 型アレルギーで、その原因としてこれらの**食物と花粉との共通抗原によるもの**とされるようになりました。

OAS は食物に対するアレルギー反応であるが、症候から由来する名称であって、**はじめから原因食物によって感作される通常食物アレルギー（たとえば、卵やミルク）とは区別して考えられています。**最近では花粉症状がなくても口腔症状をきたすものを OAS と呼んでいます。

●症状

果物・野菜などの食物摂取後、15 分以内程度の即時型反応として、口腔・口唇・咽喉頭部の刺激感、かゆみ、ヒリヒリ感、突っ張り感、血管浮腫、腫脹、水疱、咽頭閉塞感などが出現します。**多くの症状はしばらくして消失します。**

ときに、蕁麻疹などの皮膚症状、流涙など結膜症状、嘔吐・腹痛・下痢など消化器症状、アナフィラキシーをとまなうこともあります。

●診断

診断は、詳細な問診がきわめて重要です。疑いのある食物がある程度判明してきたら、確定診断として、そのアレルゲンのエキスをを用いて、皮膚テスト（プリック、またはスクラッチ法）を行います。

●花粉症との関連する口腔アレルギー症候群の原因食物

花 粉	花粉との関連があるとされる食物
ブナ目・カバノキ科・シラカンバ属の白樺	リンゴ、モモ、サクランボ、洋ナシ、ナシ、スモモ、アンズ、イチゴ、ウメ、ビワ（以上バラ科果物） ヘーゼルナッツ、ピーナッツ、ブラジルナッツ、ココナッツ、アーモンド、クルミ、ニンジン、セロリ、馬鈴薯、キウイ、ファンネル
スギ・ヒノキ	トマト
イネ科のカモガヤ・マダサ・オオアワガエリ	トマト、メロン、スイカ、馬鈴薯、オレンジ、セロリ、バナナ
ブタクサ	メロン、スイカ、カンタローブ、ズッキーニ、キュウリ（以上ウリ科食物） バナナ
ヨモギ	ニンジン、セロリ、リンゴ、ピーナッツ、キウイ

●治療

治療の基本は正確にアレルゲンを診断し、アレルゲンである食物の摂取を避けることです。

薬物治療は、OAS の諸症状に対する対症療法として、抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬の服用が中心となります。必ず専門医を受診しましょう。

●日本に多いスギ花粉症と OAS との関係

スギ花粉症は OAS の合併する頻度は低いという報告が多いようです。OAS の合併率はシラカンバ花粉症で 40～50%、オオバヤシャブシ花粉症で 26%、スギ花粉症は 16.5% という報告があります。しかし、今後 OAS は患者の増加が予想されています。

●日常における注意点

花粉症の人は果物アレルギー（口腔アレルギー症候群）を起こしやすいので注意が必要です。吸入性の花粉症と違ってアレルギーを起こす果物や野菜がわかれば予防可能です。何か食べたときに口に違和感を覚えた時は、その食べ物の種類をまず記憶するようにしましょう。

